受講生満足度調査(2019年度前期)の集計結果について

調査活動WG長　青木　宏光

2004年よりFD活動の一環として、受講生の声を聴く「受講生満足度調査アンケート」を実施して参りました。その間、一方的に教員の話を聴く受動的な学修形態から、自ら学び、自ら考える主体的・能動的な学修形態が推奨され、いわゆるアクティブラーニングを導入した授業が増えて参りました。また、2008年からは出席管理システムを用いて出席状況（旧Q1）を把握できるようになり、最近では、予習や復習の指示（旧Q14）をシラバスに明記することとなりました。さらに、学生のアンケート結果を、教員評価に反映させることも決定しております（新様式のQ7とQ8が用いられます）。

このような教育環境の変化を鑑み、質問項目を精査すると同時に、講義用・演習用・実験用に分かれていたアンケート用紙を、大阪工業大学・摂南大学と同じく、１種類にまとめました。表１には、新旧のアンケート用紙の対応表をお示しします。

この新しい質問項目のアンケート用紙で初めて実施した、2019年度前期の受講生満足度調査の集計結果についてご報告致します。

表１　新旧対応表

新	旧講義用	旧演習・実験用	新	旧講義用	旧演習・実験用
Q1（学生の授業外学修）	Q3	Q5	Q6（授業への参加）	Q12・Q13	なし
Q2（学生の目標到達への取り組み）	Q2・Q4	Q4	Q7（行動の変化）	なし（新設）	なし（新設）
Q3（授業の技術・音声情報）	Q8	Q6・Q8	Q8（授業の感想）	Q16	Q15
Q4（授業の技術・視覚情報）	Q9・Q11	Q11	Q9（自由記述・良い点）	Q17	Q16
Q5（理解度の把握とそれに即した授業内容）	Q8・Q13	Q9・Q10・Q13	Q10（自由記述・改善点）	Q18	Q17

<回答数および回答分布>

表2に受講生満足度調査を実施した科目数ならびに回答数（括弧内の数値）を示します。2018年度前期（196科目、回答数9,901）に比べ、調査科目数が多くなっており、回答数もそれに応じて増加しております。

表２　受講生満足度調査を実施した科目数ならびに回答数

授業形式	共通教育	専門	計
講義	29（1,087）	145（7,628）	174（8,715）
演習	5（167）	28（1,140）	26（1,307）
実験・実習	0（0）	11（333）	11（333）
計	34（1,254）	184（9,101）	218（10,355）

表３～５に授業区分毎の設問内容とそれに対する回答数を示します。

表３　講義科目の設問と回答数　　<共通・専門（n=8715）>

	設問	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均
1．学生の自己評価	Q1.あなたは、この授業の授業外学習を１週間で平均どの程度しましたか？	>4h	3-4h	2-3h	1-2h	<1h	0h		
		364	470	1,124	2,427	3,331	986	13	**2.75**
		4.2%	5.4%	12.9%	27.8%	38.2%	11.3%		
	Q2.あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に取り組んだと思いますか？	1,505	2,872	2,814	937	436	121	30	**4.43**
		17.3%	33.0%	32.3%	10.8%	5.0%	1.4%		
2．授業内容と教員の評価	Q3.教員の話し方は明瞭で、理解しやすかったですか？	2,859	3,048	1,833	686	221	55	13	**4.86**
		32.8%	35.0%	21.0%	7.9%	2.5%	0.6%		
	Q4.教員の板書、パワーポイント、配布資料などはわかりやすかったですか？	3,102	2,892	1,782	701	176	50	12	**4.91**
		35.6%	33.2%	20.4%	8.0%	2.0%	0.6%		
	Q5.教員は、学生の理解度を把握するように務めていましたか？また、理解度に配慮しながら授業を進めていましたか？	2,825	2,783	2,038	699	259	101	10	**4.79**
		32.4%	31.9%	23.4%	8.0%	3.0%	1.2%		
	Q6.積極的に授業へ参加する機会はありましたか？	2,155	2,149	2,033	1,105	700	561	12	**4.26**
		24.7%	24.7%	23.3%	12.7%	8.0%	6.4%		
3．総合評価	Q7.この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？	3,157	3,091	1,831	400	173	57	6	**4.97**
		36.2%	35.5%	21.0%	4.6%	2.0%	0.7%		
	Q8.総合的に考えて、この授業を受講して良かったと思いますか？	3,595	2,925	1,585	396	137	65	12	**5.06**
		41.3%	33.6%	18.2%	4.5%	1.6%	0.7%		

表４　演習科目の設問と回答数　　<共通・専門（n=1307）>

	設問	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均
1．学生の自己評価	Q1.あなたは、この授業の授業外学習を１週間で平均どの程度しましたか？	>4h	3-4h	2-3h	1-2h	<1h	0h		
		248	199	223	276	266	95	0	**3.70**
		19.0%	15.2%	17.1%	21.1%	20.4%	7.3%		
	Q2.あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に取り組んだと思いますか？	371	552	285	65	23	10	1	**4.88**
		28.4%	42.2%	21.8%	5.0%	1.8%	0.8%		
2．授業内容と教員の評価	Q3.教員の話し方は明瞭で、理解しやすかったですか？	551	517	172	49	15	3	0	**5.17**
		42.2%	39.6%	13.2%	3.7%	1.1%	0.2%		
	Q4.教員の板書、パワーポイント、配布資料などはわかりやすかったですか？	585	483	173	49	8	8	1	**5.20**
		44.8%	37.0%	13.2%	3.7%	0.6%	0.6%		
	Q5.教員は、学生の理解度を把握するように務めていましたか？また、理解度に配慮しながら授業を進めていましたか？	555	441	236	45	20	9	1	**5.10**
		42.5%	33.7%	18.1%	3.4%	1.5%	0.7%		
	Q6.積極的に授業へ参加する機会はありましたか？	502	406	222	90	50	37	0	**4.85**
		38.4%	31.1%	17.0%	6.9%	3.8%	2.8%		
3．総合評価	Q7.この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？	658	447	152	32	16	2	0	**5.30**
		50.3%	34.2%	11.6%	2.4%	1.2%	0.2%		
	Q8.総合的に考えて、この授業を受講して良かったと思いますか？	714	402	152	27	11	1		**5.36**
		54.6%	30.8%	11.6%	2.1%	0.8%	0.1%		

表５　実験・実習科目の設問と回答数　　<共通・専門（n=333）>

	設問	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均
1．学生の自己評価	Q1.あなたは、この授業の授業外学習を１週間で平均どの程度しましたか？	>4h	3-4h	2-3h	1-2h	<1h	0h		
		41	35	72	79	81	25	0	**3.40**
		12.3%	10.5%	21.6%	23.7%	24.3%	7.5%		
	Q2.あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に取り組んだと思いますか？	72	138	94	23	4	0	2	**4.76**
		21.6%	41.4%	28.2%	6.9%	1.2%	0.0%		
2．授業内容と教員の評価	Q3.教員の話し方は明瞭で、理解しやすかったですか？	103	138	73	11	7	0	1	**4.96**
		30.9%	41.4%	21.9%	3.3%	2.1%	0.0%		
	Q4.教員の板書、パワーポイント、配布資料などはわかりやすかったですか？	95	122	96	18	1	1	0	**4.87**
		28.5%	36.6%	28.8%	5.4%	0.3%	0.3%		
	Q5.教員は、学生の理解度を把握するように務めていましたか？また、理解度に配慮しながら授業を進めていましたか？	124	95	97	13	3	1	0	**4.96**
		37.2%	28.5%	29.1%	3.9%	0.9%	0.3%		
	Q6.積極的に授業へ参加する機会はありましたか？	164	98	56	13	2	0	0	**5.23**
		49.2%	29.4%	16.8%	3.9%	0.6%	0.0%		
3．総合評価	Q7.この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？	151	119	56	6	1	0	0	**5.24**
		45.3%	35.7%	16.8%	1.8%	0.3%	0.0%		
	Q8.総合的に考えて、この授業を受講して良かったと思いますか？	150	119	52	6	4	2	0	**5.20**
		45.0%	35.7%	15.6%	1.8%	1.2%	0.6%		

FD 委員会では、「学修者（学生）の行動に価値ある変化を及ぼすこと」が教育であると考え、新しく加えた質問項目が、Q７の「この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？」です。出来なかったことが出来るようになる、分からなかったことが分かるようになる、というのが教育の効果ですから、Q７が授業（教育）の成果を総合的に表していると考えています。成果を上げるためには、Q５．学修者の学修履歴に配慮し、Q３．音声情報やQ４．視覚情報を効果的に使って情報を伝え、Q６．時には実際にやらせてみながら、授業を進めていくことが必要になってくるでしょう。アクティブラーニングが推奨されていますが、アクティブラーニングを行うこと自体が教育の目的ではありません。アクティブラーニングは教育手法の一つです。学修を通して、学生を良い方向に変えていくことこそが教育の目的です。

今回のアンケート結果において、Q７で５（そう思う）、６（強くそう思う）と回答した学生が、講義科目で71.7%、演習科目で84.5%、実験・実習科目で81.1%おり、多くの学生が、授業を通して自分は「変わった」と感じてくれているようです。この数値を高めていくことが、教育の目標となります。

<学修態度と総合評価>

次に、学生の学修態度（Q１、Q２）と授業の総合評価（Q７、Q８）の相関分布を、表６～８に授業区分毎に示します。

表6　講義科目における学生の学習態度と総合評価の分布

Q7・Q8	Q1・Q2		計	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均	6･5郡との差
Q7	Q1	Q1 (6・5)	834	461	254	90	18	7	4	0	5.36	-
				55.3%	30.5%	10.8%	2.2%	0.8%	0.5%			
		Q1 (4・3)	3,564	1,331	1,341	684	152	41	11	4	5.05	-0.31
				37.3%	37.6%	19.2%	4.3%	1.2%	0.3%			
		Q1 (2・1)	4,317	1,365	1,496	1,057	230	125	42	2	4.84	-0.52
				31.6%	34.7%	24.5%	5.3%	2.9%	1.0%			
Q8		Q1 (6・5)	834	475	260	64	21	7	6	1	5.39	-
				57.0%	31.2%	7.7%	2.5%	0.8%	0.7%			
		Q1 (4・3)	3,564	1,545	1,225	590	146	44	8	6	5.14	-0.25
				43.4%	34.4%	16.6%	4.1%	1.2%	0.2%			
		Q1 (2・1)	4,317	1,575	1,440	931	229	86	51	5	4.94	-0.45
				36.5%	33.4%	21.6%	5.3%	2.0%	1.2%			
Q7	Q2	Q2 (6・5)	4,377	2,422	1,566	330	32	17	8	2	5.44	-
				55.3%	35.8%	7.5%	0.7%	0.4%	0.2%			
		Q2 (4・3)	3,781	656	1,429	1,331	281	70	10	4	4.61	-0.84
				17.3%	37.8%	35.2%	7.4%	1.9%	0.3%			
		Q2 (2・1)	557	79	96	170	87	86	39	0	3.78	-1.66
				14.2%	17.2%	30.5%	15.6%	15.4%	7.0%			
Q8		Q2 (6・5)	4,377	2,676	1,395	245	31	14	10	6	5.52	-
				61.1%	31.9%	5.6%	0.7%	0.3%	0.2%			
		Q2 (4・3)	3,781	835	1,437	1,173	255	61	15	5	4.71	-0.81
				22.1%	38.0%	31.0%	6.7%	1.6%	0.4%			
		Q2 (2・1)	557	84	93	167	110	62	40	1	3.83	-1.69
				15.1%	16.7%	30.0%	19.7%	11.1%	7.2%			

表7　演習科目における学生の学習態度と総合評価の分布

Q7・Q8	Q1・Q2		計	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均	6･5郡との差
Q7	Q1	Q1 (6・5)	447	302	117	20	5	3	0	0	5.59	-
				67.6%	26.2%	4.5%	1.1%	0.7%	0.0%			
		Q1 (4・3)	499	237	186	57	14	5	0	0	5.27	-0.31
				47.5%	37.3%	11.4%	2.8%	1.0%	0.0%			
		Q1 (2・1)	361	119	144	75	13	8	2	0	4.96	-0.63
				33.0%	39.9%	20.8%	3.6%	2.2%	0.6%			
Q8		Q1 (6・5)	447	307	103	29	4	4	0	0	5.58	-
				68.7%	23.0%	6.5%	0.9%	0.9%	0.0%			
		Q1 (4・3)	499	266	172	49	9	3	0	0	5.38	-0.20
				53.3%	34.5%	9.8%	1.8%	0.6%	0.0%			
		Q1 (2・1)	361	141	127	74	14	4	1	0	5.06	-0.51
				39.1%	35.2%	20.5%	3.9%	1.1%	0.3%			
Q7	Q2	Q2 (6・5)	923	574	298	41	5	5	0	0	5.55	-
				62.2%	32.3%	4.4%	0.5%	0.5%	0.0%			
		Q2 (4・3)	351	75	145	103	20	8	0	0	4.74	-0.81
				21.4%	41.3%	29.3%	5.7%	2.3%	0.0%			
		Q2 (2・1)	33	9	4	8	7	3	2	0	4.09	-1.46
				27.3%	12.1%	24.2%	21.2%	9.1%	6.1%			
Q8		Q2 (6・5)	923	613	258	47	2	3	0	0	5.60	-
				66.4%	28.0%	5.1%	0.2%	0.3%	0.0%			
		Q2 (4・3)	351	92	141	93	19	6	0	0	4.84	-0.76
				26.2%	40.2%	26.5%	5.4%	1.7%	0.0%			
		Q2 (2・1)	33	9	3	12	6	2	1	0	4.24	-1.36
				27.3%	9.1%	36.4%	18.2%	6.1%	3.0%			

表8　実験・実習科目における学生の学習態度と総合評価の分布

Q7・Q8	Q1・Q2		計	6 大変そう思う	5	4	3	2	1 まったくそう思わない	無回答	平均	6-5郡との差
Q7	Q1	Q1 (6・5)	76	33	31	11	1	0	0	0	5.26	-
				43.4%	40.8%	14.5%	1.3%	0.0%	0.0%			
		Q1 (4・3)	151	71	52	26	1	1	0	0	5.26	0.00
				47.0%	34.4%	17.2%	0.7%	0.7%	0.0%			
		Q1 (2・1)	106	47	36	19	4	0	0	0	5.19	-0.07
				44.3%	34.0%	17.9%	3.8%	0.0%	0.0%			
Q8		Q1 (6・5)	76	31	29	12	2	1	1	0	5.11	-
				40.8%	38.2%	15.8%	2.6%	1.3%	1.3%			
		Q1 (4・3)	151	72	55	22	0	1	1	0	5.28	0.18
				47.7%	36.4%	14.6%	0.0%	0.7%	0.7%			
		Q1 (2・1)	106	47	35	18	4	2	0	0	5.14	0.04
				44.3%	33.0%	17.0%	3.8%	1.9%	0.0%			
Q7	Q2	Q2 (6・5)	210	127	68	15	0	0	0	0	5.53	-
				60.5%	32.4%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%			
		Q2 (4・3)	119	24	48	40	6	1	0	0	4.74	-0.79
				20.2%	40.3%	33.6%	5.0%	0.8%	0.0%			
		Q2 (2・1)	4	0	3	1	0	0	0	0	4.75	-0.78
				0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q8		Q2 (6・5)	210	128	68	12	0	1	1	0	5.52	-
				61.0%	32.4%	5.7%	0.0%	0.5%	0.5%			
		Q2 (4・3)	119	22	50	37	6	3	1	0	4.66	-0.86
				18.5%	42.0%	31.1%	5.0%	2.5%	0.8%			
		Q2 (2・1)	4	0	1	3	0	0	0	0	4.25	-1.27
				0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

実験・実習科目では、サンプル数の少ない群があり、差が見えにくくなっておりますが、講義・演習科目では、学修時間が長い（Q１の６・５）ほど、自分自身の変化（Q７）を感じることが多く、授業に対する満足度（Q８）も高くなっております。ただし、学修時間が短い群（Q１の２・１）との差はあまり大きくなく、平均で0.5ポイント程度の低下にとどまっております。

これに対して、学生が意欲的に学修に取り組んだかどうか（Q２）ということが、自分自身の変化（Q７）や授業に対する満足度（Q８）に大きく影響を与えていることが分かります。これも実験・実習科目では分かりにくいのですが、講義・演習科目では、意欲的に取り組んだ群（Q２の６・５）と、そうでなかった群（Q２の２・１）では、Q７、Q８ともに平均が1.5ポイント程度低くなっております。

＜アンケート結果の経年変化＞

新様式の質問項目のうち、旧様式と全く同じものは、Q１の授業外学修とQ８の授業の感想だけです。これら以外のものは、新様式の質問項目に近いものを、旧様式から対応させ、どのように変化しているのかを示します。

表9　講義科目における全体平均値の推移（過去4年間分）

設問概要	旧	2015後期 (n=9181)	2016前期 (n=9318)	2016後期 (n=7249)	2017前期 (n=8330)	2017後期 (n=6926)	2018前期 (n=8667)	2018後期 (n=8325)	2019前期 (n=8715)
Q１．学生の授業外学修(予習･復習等)の時間	Q３	2.72	2.70	2.71	2.90	2.81	2.92	2.91	2.75
Q２．学生の目標到達への取り組み	Q２	5.11	5.13	5.13	5.19	5.18	5.21	5.19	4.43
Q３．音声情報	Q８	5.05	5.08	5.06	5.12	5.16	5.15	5.16	4.86
Q４．視覚情報	Q１１	5.04	5.05	5.05	5.13	5.17	5.14	5.19	4.91
Q５．理解度の把握とそれに即した授業内容	Q１３	5.06	5.07	5.11	5.11	5.17	5.14	5.19	4.79
Q６．授業への参加	Q１２	4.86	4.79	4.81	4.84	4.88	4.82	4.88	4.26
Q７．行動の変化	–	–	–	–	–	–	–	–	4.97
Q８．授業の感想	Q１６	5.25	5.30	5.26	5.31	5.33	5.34	5.33	5.06

表10　演習科目における全体平均値の推移（過去4年間分）

設問概要	旧	2015後期 (n=877)	2016前期 (n=1307)	2016後期 (n=961)	2017前期 (n=1559)	2017後期 (n=669)	2018前期 (n=888)	2018後期 (n=1032)	2019前期 (n=1307)
Q１．学生の授業外学修(予習･復習等)の時間	Q５	2.85	2.87	3.18	3.32	2.91	3.34	3.16	3.70
Q２．学生の目標到達への取り組み	Q４	5.24	5.26	5.33	5.38	5.29	5.33	5.35	4.88
Q３．音声情報	Q８	5.08	5.13	5.13	5.22	5.20	5.18	5.20	5.17
Q４．視覚情報	Q１１	4.98	5.14	5.17	5.22	5.13	5.26	5.20	5.20
Q５．理解度の把握とそれに即した授業内容	Q９	5.09	5.12	5.17	5.20	5.23	5.20	5.22	5.10
Q６．授業への参加	–	–	–	–	–	–	–	–	4.85
Q７．行動の変化	–	–	–	–	–	–	–	–	5.30
Q８．授業の感想	Q１５	5.26	5.30	5.30	5.36	5.33	5.31	5.27	5.36

表11　実験・実習科目における全体平均値の推移（過去4年間分）

設問概要	旧	2015後期 (n=757)	2016前期 (n=674)	2016後期 (n=649)	2017前期 (n=375)	2017後期 (n=979)	2018前期 (n=346)	2018後期 (n=1088)	2019前期 (n=333)
Q１．学生の授業外学修(予習･復習等)の時間	Q５	3.34	3.40	3.45	3.59	3.47	3.68	3.58	3.40
Q２．学生の目標到達への取り組み	Q４	5.52	5.42	5.54	5.53	5.51	5.52	5.53	4.76
Q３．音声情報	Q８	5.31	5.22	5.45	5.37	5.33	5.30	5.49	4.96
Q４．視覚情報	Q１１	5.28	5.27	5.36	5.28	5.28	5.25	5.41	4.87
Q５．理解度の把握とそれに即した授業内容	Q９	5.34	5.29	5.48	5.36	5.34	5.36	5.48	4.96
Q６．授業への参加	–	–	–	–	–	–	–	–	5.23
Q７．行動の変化	–	–	–	–	–	–	–	–	5.24
Q８．授業の感想	Q１５	5.53	5.47	5.68	5.61	5.53	5.47	5.60	5.20

Q２は、質問に「到達目標を意識し、到達目標に向けて」という言葉を付け加えただけなのですが、大きく数値が低下しています。Q８は旧様式とまったく同じ文言なのですが、演習科目以外で大きく数値が低下しています。その他の項目に関しては、近い質問項目を当てはめていますが、完全には一致していませんので、これからどのように変化していくのか、暫く静観したいと考えています。

＜授業外学修＞

最後に、授業外学修時間の推定値を示します。授業外学修に関する設問で回答１：0時間、２：0.5時間、３：1.5時間、４：2.5時間、５：3.5時間、６：4.5時間と仮定して、回答数から平均の授業外学修時間を算定しました。また、授業外学修が1時間未満の学生の割合を授業区分毎にまとめ、過去4年間の推移を示します。

表12　授業外学修時間の推定値（単位：時間、過去４年間）

	2015後期	2016前期	2016後期	2017前期	2017後期	2018前期	2018後期	2019前期
講義	1.30	1.30	1.28	1.29	1.45	1.39	1.48	1.33
演習	1.14	1.43	1.45	1.74	1.87	1.48	1.88	2.23
実験･実習	1.85	1.86	1.92	1.96	2.10	2.00	2.20	1.94

表13　授業外学修が１時間未満の学生の割合（過去４年間）

	授業外学修	2015後期	2016前期	2016後期	2017前期	2017後期	2018前期	2018後期	2019前期
講義	0h	16.5%	16.5%	16.3%	11.0%	15.3%	12.2%	13.9%	11.3%
	0-1h	35.6%	36.4%	35.8%	34.1%	33.8%	33.0%	32.1%	38.3%
演習	0h	16.5%	15.7%	10.4%	10.2%	14.1%	8.9%	13.0%	7.3%
	0-1h	29.5%	30.1%	25.1%	24.7%	31.3%	22.9%	27.1%	20.4%
実験･実習	0h	2.9%	2.5%	3.1%	3.2%	6.0%	4.1%	4.1%	7.5%
	0-1h	17.8%	24.8%	22.7%	20.3%	21.7%	18.0%	21.5%	24.3%

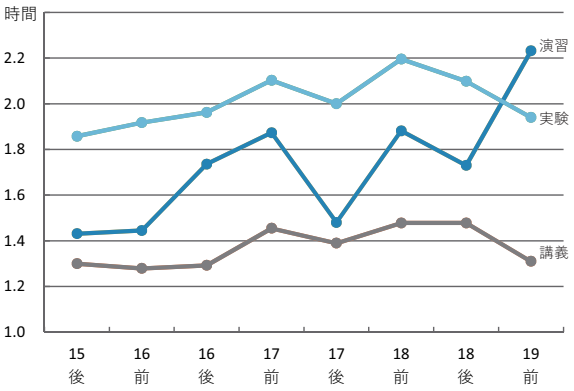

図１　授業外学修時間（推定値）の推移（過去４年間）

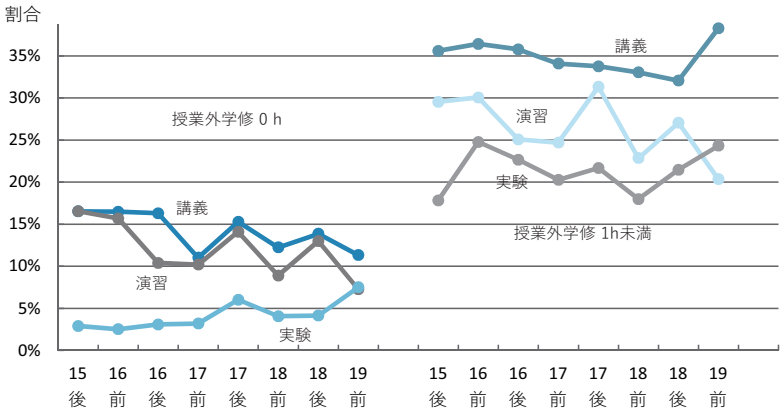

図２　授業外学修時間が１時間未満の学生の割合

今回、演習科目において、学修時間の延長が見られましたが、講義科目、実験・実習科目では、微減でした。

＜まとめ＞

今回、新様式のアンケート用紙を用いて、初めて受講生満足度調査アンケートを実施致しました。新様式では、自由記述欄を、旧様式に比べて倍の80字までとしました。自由記述欄は結果を集計できないため、正確には把握できませんが、授業の良かった点、改善点を指摘してくれる学生も多かったのではないかと推察しています。

以前まで５点以上あった、学生の意欲的な学修への取り組み（Q２）が、今回、大きく低下しました（表９～11）。学修意欲は、教育効果に直結している（表６～８）ため、憂慮しておりますが、この状態でさえ、新しく加えたＱ７の自己変化の評価は、講義科目で約5、演習・実験科目では約5.3と比較的高い値を示していますので、暫く、静観して、変化の様子を見ていきたいと思っております。

前述の通り、Ｑ７で、「新しい知識・技能・態度が身に付いた」と答えてくれた学生が、講義科目で約７割、演習・実験科目では約８割おりました。しかしながら、逆に言うと、２～３割の学生は、授業を受けても「ほとんど変わらなかった」ということを示しております。このような学生を減らすにはどのような授業を展開していけばよいのか、教職員一体となって考えて参りたいと思っております。